部門やチームを超えた

情報共有のコツ



backlog by nulab

多くのプロジェクト現場の声に耳を傾けると、部門を跨ぐ連携において「共通の課題」が見えてきました

お悩み

立場や役割の違いが生む「心理的な壁」



他の部署横断の会議だと
思惑が読めず発言できないことは
よくある。
見えているものが違う相手
との対話が難しい。

お悩み

情報へのアクセス権が、「個人に依存」している

ある部署の資料が閉じられた場所に格納されて
あって、毎回その部署の人に聞きにいかないと
アクセスできない状態です。
その部署との連携に苦労しています。



部門やチームを超えた情報共有ができておらず、連携に苦労しているという声が多数。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

なぜ部門間の連携は「壁」にぶつかるのか？

部門間の壁は、
単なる交流不足ではなく「情報の非対称性」から生まれます。

現状

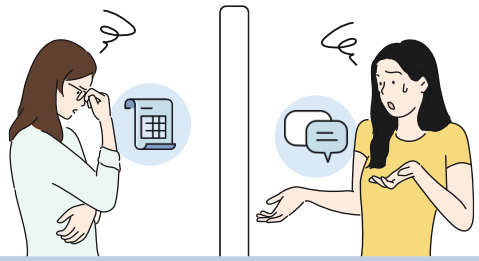
情報が部署ごとに分断



問題点

連携を阻む「情報の溝（ギャップ）」

- **文脈の欠如**：自部署では「当たり前」の経緯が他部署には伝わっていない
- **手段の不一致**：部署ごとに管理手法がバラバラ



セルフチェック

- 必要な資料が他部署の閉じたフォルダにあり、特定の担当者が不在だと業務が止まる
- 他部署の進捗を確認するために、わざわざ会議を設定したりメール・電話で問い合わせている

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

部門間の「情報の壁」を壊す3つのルール

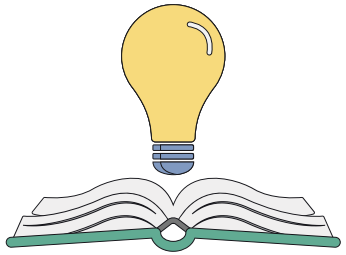
「誰もが同じ情報に辿り着ける」仕組みを作る

プロセスの透明化



個人のメールやDMに閉じがちな
「判断の経緯」をタスクに紐づけて公開。
背景を共有することで、
他部署との「認識のズレ」を未然に防止

ナレッジの標準化（脱・属人化）



業務の手順やマニュアル、共有資料を
チーム共通のドキュメントとして集約し、
情報の非対称性を無くす

進捗のリアルタイム同期



日々の更新が
そのまま共有される環境を作ることで、
他部署の動きを「自然に把握できる」
状態を構築する

次のページから、**Backlogを活用した解決のヒント**をご紹介します！

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

「Backlog」とは？

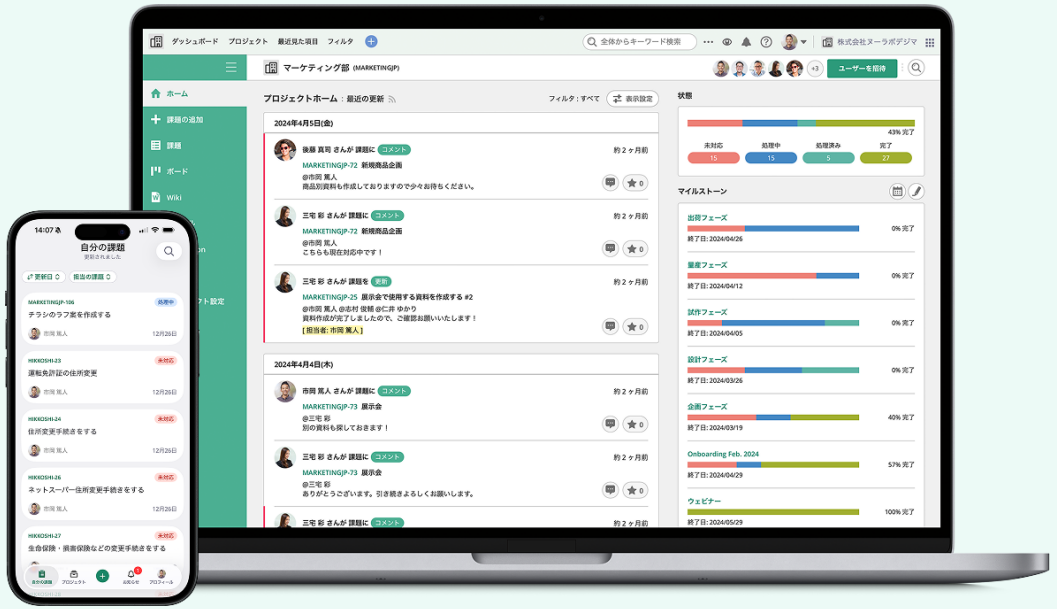
チームのタスクを可視化しコミュニケーションを促進する、
プロジェクト・タスク管理ツールです。

Backlogの特長

シンプルな操作性
直感的なインターフェースで誰でも簡単に使いこなせます

親しみやすいUI
使いやすさを重視した“仕事が楽しくなる”デザイン

チームで働くすべての人に
チーム全体の業務やタスクを可視化し、情報を一元管理できる多彩な機能



backlog by nulab

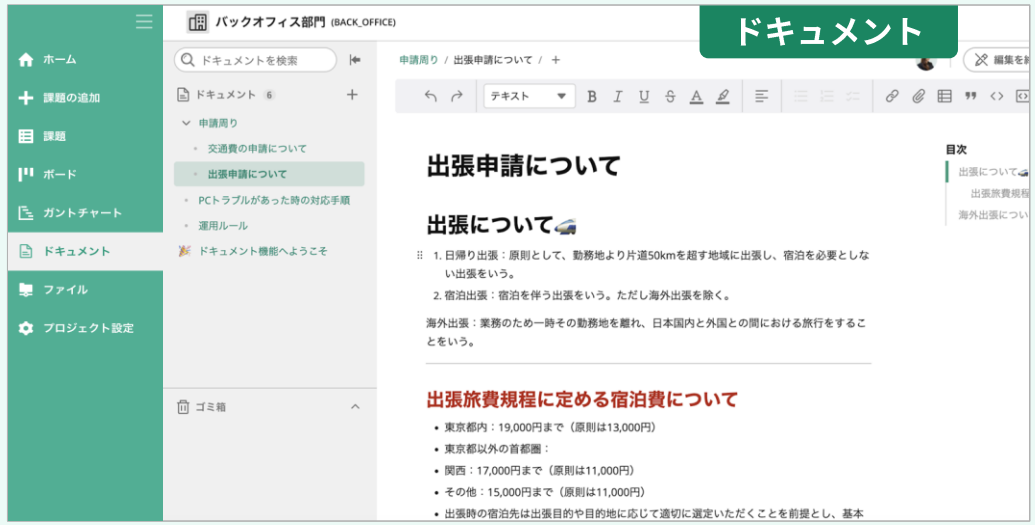
主な用途

- プロジェクト管理
- タスク管理
- バージョン管理
- ナレッジ共有

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

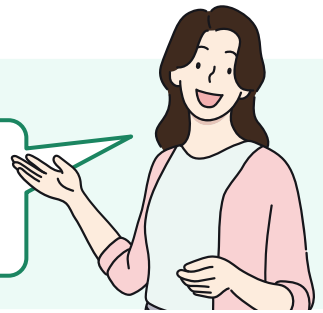
解決策 1　ナレッジの一元管理

使用する機能：「ドキュメント」



- ドキュメントに業務手順やマニュアルを集約すれば、部門やチームを超えてナレッジを一元管理できます
- ドキュメントは複数人で同時に編集できるため、会議の議事録や業務メモをその場で共有・更新できます
- 情報が蓄積されることで、担当者の異動や退職があっても、スムーズに業務を引き継ぐことができます

マニュアルなどのナレッジをBacklogに一元管理することで、
部門を超えた情報共有が簡単になります。



© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

解決策 2　資料の一元管理

使用する機能：「ファイル」



- **業務に必要な資料をファイル機能に集約すれば、部門やチームが異なっても簡単に見つけることができます**
- **ファイルに格納した資料は「更新日」の期間や「更新者」で絞り込んだり、「ファイル名」で検索できます**

資料をBacklogに一元管理すれば、部門が異なっても簡単に探すことができます。



© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

解決策 3　部門を超えてプロジェクト・タスク状況を可視化する

使用する機能：「課題」「ガントチャート」



- 担当者、期限、タスク内容を「課題」として明確に登録できます
- 「課題」を登録すると自動的に「ガントチャート」が生成され、状況を一目で確認できるようになります

部門を超えてプロジェクト・タスク状況を可視化することで
「情報の非対称性」が解消され、連携が促進されます。



© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

解決策 4　AI活用で部門を超えて簡単に情報収集

使用する機能：「Backlog AIアシスタント」



- **Backlog AIアシスタントに質問すると、Backlogに蓄積された情報から必要なものを整理・要約して提示します**

- **プロンプト例**
  - このプロジェクトの進捗をまとめて
  - 〇〇に関する資料を探して
  - 〇〇（業務名）の作業手順を教えて



Backlogに各部門の情報が蓄積されていれば、AIが即座に情報を整理し提示してくれるため、担当者に問い合わせる手間も省けます。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

Backlogのご案内



まずは
体験してみませんか？

30日間無料で試す



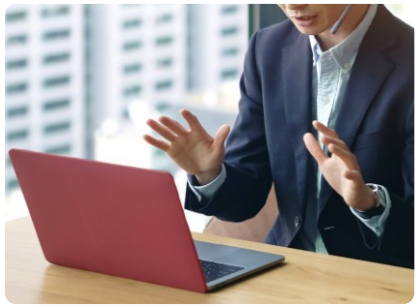
Backlogがわかる！
資料3点セット公開中

ダウンロードする



オンラインセミナー
開催中

セミナーに申し込む



オンライン個別相談も
可能です

個別相談を予約する

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年 3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」 ● オンラインホワイトボードツール「Cacoo」 ● 組織の情報セキュリティ・ガバナンスを強化するツール「Nulab Pass」 ● ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.